



# 建物周囲の蚊対策

～管理者の皆様へ～

蚊の発生を防ぐには、日頃からの対策が重要です。

- 蚊は、成虫になると行動範囲が広がりますが、幼虫は小さな水たまりに多数生息しているので、防除は幼虫(ボウフラ)のうちに行うことが最も効果的です。
- 蚊の防除は、①点検 ②対策 ③効果判定の順に行うことが大切です。
- 対策は「環境対策」(清掃・整理整頓・施設改善等により発生を防ぐ方法)が基本です。殺虫剤は人や環境に影響するので、まず「環境対策」を徹底して行い、他に方法がない場合にのみ使用するようにしましょう。
- 年間計画を策定するなどして、定期的に防除を行い、蚊の発生を防ぎましょう。



## 蚊の防除の手順

### ①点検

周囲を巡回して、蚊が発生する可能性のある場所を点検し、発生状況を確認します。



記録を残そう！

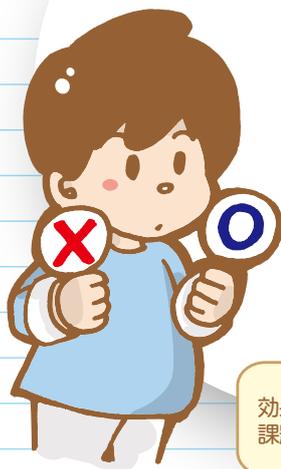
蚊はどんな場所から発生しているのかな？  
どの位発生してるかな？



必ず！

### ③効果判定

対策の効果を判定します。効果が認められない場合は、原因を調査したうえで再度対策を講じます。  
◎対策の意義や効果、課題を明らかにするために、必ず実施してください。



効果はあったのかな。  
課題は何かな。

### ②対策

点検を行った場所の状況に応じて、必要な対策を講じます。

対策の詳しい内容は裏面を見てね！



定期的に繰り返します

# 点検場所と対策

環境対策が  
キホンよっ



点検場所	環境対策	薬剤対策
建物周囲の 不要な水たまり	水たまりをなくす	
水槽類 〔雑排水槽・汚水槽 浄化槽・湧水槽等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>①定期的に清掃する (湧水槽は、水を滞留させないように、こまめに水を汲み上げる)</li> <li>②マンホール蓋の密閉状況を確認し、ひび割れなど蚊の出入り可能な隙間があればパテなどで塞ぐ</li> <li>③通気管などの開放部に防虫網(18メッシュ以上)を設置する</li> </ol> ※水槽類は年間を通じて安定的な温度になるため、一年を通じた対策が必要です。	蒸散剤を吊るす  ※蒸散剤 有効成分を空間に放出させ、殺虫効果を発揮する殺虫剤です。常温蒸散剤(常温下で放出するもの)を使用しましょう。
雨水ます 排水ます	<ol style="list-style-type: none"> <li>①泥だめを清掃し、落ち葉等を取り除く(図1参照)                ※泥だめ 雨水と一緒に、落ち葉やごみ等の有機物がたまります。これらはボウフラの餌となるため、蚊の格好の生息場所になります。</li> <li>②防虫網を設置する(図2参照)                (注意点)                ・蓋と槽の間に隙間を作らないように設置する                ・網に溜まるごみを定期的に除去する                ・網に穴が開いていないかを定期的に点検する</li> </ol>	幼虫用殺虫剤を投入する ※幼虫用殺虫剤 様々な種類のものがありますが、昆虫成長制御剤(IGR)を推奨しています。 
雨どい・排水パイプ 受水槽室等の排水溝 水没した埋没型散水栓	定期的に詰まりを取り除き、水に流れをつける	
植え込み 草むら	定期的に、せん定する	

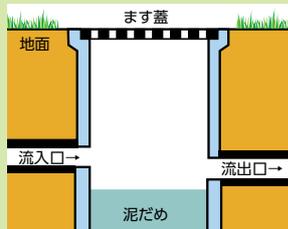


図1(構造)

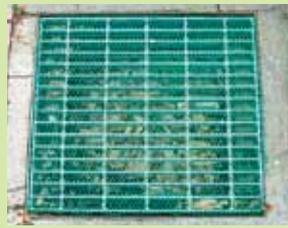


図2 防虫網を設置した例

## 薬剤の使用について

やむを得ず薬剤を使用する際は、人や環境に対する影響を可能な限り少なくするよう配慮するようにしましょう。

防除のキホン  
「環境対策」



補助的手段  
「薬剤対策」

## 処理手順 具体例

- ① 薬剤の種類・薬量・処理方法・処理区域について十分な検討を行う。
  - ・医薬品・医薬部外品を使用する
  - ・リスクの少ない薬剤・処理方法を選択する
  - ・発生の見られた場所に限り処理するなど散布範囲を限定する
- ② 事前に、施工場所・日時・作業内容・責任者等を建物の利用者に周知する。
  - ・少なくとも3日前から、掲示するなどして知らせる
- ③ 用法・用量・使用上の注意を厳守して処理する。
- ④ 処理後は、必ず効果判定を行う。

